

平成 31 (令和元) 年度 学校 自己 評価 表 (中間 評価) (案)

| | |
|-------------------|--|
| 中長期目標 (学校ビジョン) | 克己の徳を備えた人間力豊かな生徒の育成 (1)高い志と自ら学ぶ力 (2)確かな学力と公共の精神 (3)自らを律する力と他を思いやる心 (4)率先して行う勇気と協力して成し遂げる知恵 (5)健やかな体と感動する心 |
|-------------------|--|

| | |
|----------|---|
| 今年度の重点目標 | 1 学力の向上と進路実現 (1)授業規律と学習習慣の確立 (2)力をつける授業、生徒が主体的に取組む授業の工夫 (3)キャリア教育の充実 2 自主自律と協調性の育成 (1)基本的学習習慣の確立 (2)生徒会活動、学校行事の充実による自主性の育成 (3)質の高い部活動の実践 3 学校の魅力化 (1)コースの発展・充実 (2)「地域探究の時間」の発展・充実 4 学校における安全確保の徹底 5 業務改善の取組の推進 |
|----------|---|

評価基準 A:十分達成 (90%) B:概ね達成 (70%程度) C:変化の兆し (50%程度) D:まだ不十分 (35%程度) E:目標・方策の見直し (20%以下)

| 評価項目 | 具体項目 | 目指す姿 | 年 度 当 初 | | 評価結果 | | |
|-------------|--------------------------|---|---|---|---|---|--|
| | | | 現状 | 具体的方策 | | | |
| 学力の向上と進路実現 | 授業規律と学習習慣の確立 | ○どの生徒も授業を大切に、主体的に授業に取組んでいる。 ○予習や復習課題に取り組むなど学習習慣が身につけている。 ＜指標＞教員アンケート「生徒が授業に集中して取り組んでいる」の評価AとBと合わせて70%以上。生徒の家庭学習時間1日平均1時間30分以上。 | ○おおむね授業規律は良い。また、始業時間に遅れる生徒や授業の用意が不十分な生徒もわずかである。 ○普段、授業の予習や復習をしなかったため、課題提出を求められる。また、定期考査や小テスト・単元テストの前だけ家庭学習をするという生徒が一部に見受けられる。 | ○評価方法を周知徹底する。平常点も重視されることから、教師が授業開始時間を必ず守り、チャイムとともに授業が始まるよう生徒に指導するとともに、教材などの持ち物についても確認する。 ○予習・復習の指示を具体的に示し、提出物についてもこまめに確認する。また、学習についてこれない生徒・気になる生徒については課外や面談等を行い、関係職員と連携し対処する。 ○生徒が授業に集中できる環境づくりを行う。そのために、学年会・教科会・支援会議等で情報交換を行い生徒理解に努める。 | ○評価方法・平常点については周知されてきたが、トイレ工事の関係で遠くのトイレに行くこと、便器の数が少なく待ち時間があることを理由に、授業に遅れてくる生徒が夏休み以降若干名いる。 ○課題等の提出状況について詳細に確認。また、学習についてこれない生徒については二学期中間考査前に学習会を持った。 ○授業態度等の気になる生徒については関係職員と情報交換するとともに、1、2年について教科担当者に参加してもらい学年会をもって協議し、対応した。 | B | ○今後の定期考査前には成績不振者に向けた課外授業や学習会を持つ。 ○家庭学習状況に課題があり、各教科で予習・復習状況や、課題の質と量の検証し、対策を講じる。 |
| | 力をつける授業、生徒が主体的に取り組む授業の工夫 | ○学習効果が高い授業により、学力を高めている。 ○多様で深い学びを通じて、生徒の学習への主体性を引き出すことが出来ている。 ＜指標＞生徒アンケート「授業に満足している」、「自分で勉強を進めようとしている」の評価AとB合わせて70%以上。 | ○生徒の基礎学力に差がある中、その向上に努力している。 ○公開授業などを通して授業の工夫を共有し、生徒の学力が十分に定着できるよう努力をしている。 ○授業におけるiPadの利用やClassiの導入等で、授業の進め方を変えつつある。 | ○授業中の内容や発問を絶えず検証し、授業力の向上に繋げている。 ○個別指導等により、弱点の克服を行い、その上で、授業内容を高めていく。また、それらの内容については各教科会や校内の委員会等で検証していく。 ○校内・校外の研修会や授業研究会に積極的に参加し、生徒理解と授業力の向上に努める。 | ○授業力の向上の取り組みについては、公開授業を中心に教科会で協議してもらうなど進行中である。 ○夏季休業中には成績不振者に向けた課外を実施し、弱点の克服に取り組んだ。 ○授業内容を高めていく取り組みについては、校外の研修会や授業研究会に積極的に参加するとともに、校内でも全職員参加のアクティブ・ラーニング研修を実施した。(10月17日) | B | ○3学期には理科のAL研修を予定している。また、後期にも授業公開期間を2回設定している中で、全職員で研修を行う。 |
| | キャリア教育の充実 | ○キャリア教育の体系的な推進がなされ、入学時から進路探究の機会が充実している。 ○選択科目のグループ化により、進路実現に向けた学びの環境を整えている。 ＜指標＞生徒アンケート「明確な進路目標を持っている」評価AとB合わせて80%以上。 | ○アンケート結果では「明確な進路目標を持っている」生徒の割合が75%前後で推移している。しかし、目標達成への道筋がイメージできず、具体的な行動に移せない生徒や、目標を下げてしまう生徒の姿もある。 ○進路実現に向けた学びの環境を整えつつあるが、生徒が学びに向きあうまでに時間がかかっている。 | ○各学年とも、進路検討会などを通じて進路指導方針を共有した。その上で、進路目標に応じた科目選択、高い志望の維持など、それぞれの時期に応じた進路指導を行うことができた。 ○各担任を中心に丁寧に面談指導を行った。職員の意識を揃えながら模試結果などを生徒にフィードバックし、充実した進路面談としている。 | ○各学年とも、進路検討会などを通じて進路指導方針を共有した。その上で、進路目標に応じた科目選択、高い志望の維持など、それぞれの時期に応じた進路指導を行うことができた。 ○各担任を中心に丁寧に面談指導を行った。職員の意識を揃えながら模試結果などを生徒にフィードバックし、充実した進路面談としている。 | B | ○2年生については、進路志望調査や進路面談と関連づけて具体的な志望校等について考えさせていく。1年生は1学期進路探究での体験を適宜織り交ぜながら進路面談を行い、明確な目標をもたせる指導を行う。 |
| 自主自律と協調性の育成 | 基本的学習習慣の確立 | ○より高い生活習慣及びマナーやモラルを身につけ落ち着いて生活できている。 ＜指標＞遅刻者数の減少。頭髪・服装指導対象者数の減少、問題行動発生件数の減少。 | ○昨年度は、遅刻が増加し遅刻指導や服装指導を行う場面が多かった。今年度は基本的学習習慣の確立・遅刻の減少・授業規律・服装容儀・公共マナーの徹底に向けて学校を挙げて取り組もうとしている。 | ・5Sの徹底。(整理、整頓、清掃、清潔、躰) ○遅刻・服装・不要物などについての各指導票を徹底する。 ○教室や公共の場所からの私物の撤去及び整理整頓を徹底する。 ○基礎・基本の徹底等、SHRなどでのタイムリーな指導。 | ○遅刻に対する認識が甘く、人数も増加中である。遅刻届さえ催促しないと出ない状況がある。校内規定の遵守が甘い。 ○5Sの励行により、教室整備もやや改善傾向にあるが、クラスや場所によって差が大きくまだまだ行き届いていない。 ○交通ルール・公共マナーの認識が甘い。 | C | ○5Sやルール、マナーを守ることの必要性を理解させるために、保護者、職員間の連携を密にし、小集団単位でポイントを絞って指導、説諭する。これを徹底することで、物事に対する考え方の改善を促し、基本的学習習慣の見直し、確立につなげる。 |
| | 生徒会活動、学校行事の充実による自主性の育成 | ○どの生徒も生徒会活動や学校行事に主体的に参加し、成功体験を通して達成感を得ている。 ○どの生徒も学校行事を通じて、他者との協調性や思いやりを身に付けるなど、人間力の向上が見られる。 ＜指標＞生徒アンケート「学校行事に積極的に参加している」評価AとB合わせて85%。また、生徒アンケート「本校の学校行事は充実している」の評価AとB合わせて85%以上。 | ○縦の横のつながりが希薄で、執行部・育英祭実行委員・応援団・各委員会活動も含め、生徒会活動に主体的に参加する生徒もいるが、全体としての意識は薄い。 ○育英祭・球技大会では生徒会執行部・実行委員が全体像をイメージできておらず、連携がまだまだであり、協調性もとほしい。 | ○執行部と委員会、部活動が連携し目標見える化することで全校生徒への取組を促す。挨拶運動、クラスごとの遅刻者延べ人数がわかるボードの設置、放課後の教室点検、部室一斉清掃等を行う。 ○実行委員会や執行部会の回数を増やすことで、全体を把握させる。全校生徒への指示を目的も含め明確にし、全校生徒が活動できるようとする。 | ○挨拶運動は執行部と部活動が連携してきている。教室点検後の報告により、ある程度きれいになってきたが、特定のクラスの意識が低い。 ○遅刻も同じ傾向にある。原因はクラスみんなで取り組むという感覚が低く個別対応が必要である。 ○部室は移動を兼ね一斉清掃することできれいになった。鍵の返却もある程度意識している。 ○実行委員の成長は見られるが全体への指示不足はあった。行事に積極的に参加している84%と少し。 | A | ○挨拶運動を継続する。 ○生活委員が集計翌日にSHRで報告・呼びかけ遅刻の多い生徒に挨拶運動への参加を要請する。 ○クラス単位で行っていた教室整備を後期から個別指導に移す。 ○早期に募集した育英祭実行委員により、内容を精査し、さらなる自主運営に努める。 |
| | 質の高い部活動の実践 | ○全校生徒が部活動に積極的に参加し、質の高い活動により、県大会優勝など高い実績を上げている。また、スポーツ重点校の生徒として、トップアスリートを目指して、部活動に励んでいる。 ○自ら考え取り組むことで、集中力を高め、効率的な部活動を実践している。 ＜指標＞県大会優勝6部。全国大会出場8部、全国大会出場者数のべ150名 | ○多くの生徒が部活動に参加し、活発に活動している。(昨年度)・部活動加入率全体92% 県大会優勝7部(個人含む)、全国大会への出場は7部、延べ125名 | ○定期的に部活動参加状況をチェックし、未加入者への声かけをする。(9月末に調査し生徒総会で促す) ○生徒会執行部・応援団を中心に各部の活動を応援するとともに、結果についても広く全校に広報していく。ホームページの掲載を積極的に依頼する。 ○年間及び月間計画に基づき練習方法の改善に努め、より効果的な部活動の運営を行う。 | ○定期的に部活動参加状況をチェックし、未加入者への声かけをしようとして計画ができていない。 ○ホームページに関しては各部が公開している。 ○月間計画や考査前計画等各部に提出してもらっている。新たな問題として合宿の計画を年間通して提出を求めたほうがいいかもしれない。施設使用届け(GS)に空いていれば各部で入れていくので把握が困難であった。 | A | ○後期部員数調査を行い、未加入者リストアップして働きかける。 ○声掛けをしてHPの更新を継続する。 |
| 学校の魅力化 | コースの発展・充実 | ○体育コースは、トップアスリートを目指して日々鍛錬する中で、意識レベルを高めて、部活動はもとより、学校生活において範となる生徒を育成している。 ○普通コースは、上級学校への進学等、進路実現を果たすための学力と人間力をしっかり身につけている生徒を育成している。 ＜指標＞学校生活や行事の中で、リーダーシップを発揮し企画運営なども自主的に行う生徒が増えている。また、国公立大学5%以上、私立大学20%以上、就職率100%の進路実現を達成する。 | ○体育コースの生徒が、部活動の面でリーダー的な役割を果たしている。学校生活においてもリーダー的な役割を果たしていくことである。(生徒会、応援団など) ○体育コースの上級学校進学者は、例年半数程あるが、そのうち競技を継続する生徒は若干名である。 ○昨年度の国公立大学現役合格数は4名で前年度と変わらなかった。また、昨年度は体育コースからの国公立大合格者が復活した。 ○普通コースでは、進路面談等きめ細かい指導が行われ、安易な進路決定をしない雰囲気醸成され、取組が充実しつつある。 | ○定期的に体育コース集集を開き、体育コースの一員として、自覚ある行動及び習慣を身に付けさせる。 ○スポーツ・文化芸術活動重点校として体育コースの各種事業や実習等を通じて、人間性や協調性を養い、競技力向上に繋げる。 ○高校で競技を終えることのないよう、更なる可能性を見出す指導と高い志の育成、将来指導者となる人材の育成を行う。 ○特進クラスの充実に取り組む。国公立大を希望する生徒を増やし、意識付けと実力養成を図る。また、他のクラスでも私立大学の全体的な難化を考慮し、きめ細かい指導の充実を図り、高い意識を持たせ魅力あるクラスにする。 | ○4月初めに体育コースオリエンテーションを実施し、コースの一員としての自覚を高めてスタートできた。その後、6月9日にコース集集を行い、今後も継続して、集集を開催し意識付けを行った。 ○「メンタルトレーニング講習会」を10月・11月・2月、「トップアスリート講演会」指導者研修」を12～2月に予定している。また、今後の各種実習についても予定通り実施予定である。 ○体育コース充実事業を各部活動等で活用できるように実施する。 ○特進クラスの充実に向けては、本年度も2年生に岡山大学研修を実施し、さらに学力向上委員会等で3年間を見据えた指導の流れを検討している。また、他のクラスの生徒を含めた大学進学希望者対象に放課後課外や自学に取り組む学習会を毎日開催している。推薦入試の希望者には、指導担当教員をつけてきめ細かい指導を行っている。 | B | ○特進クラスについて、外部模試の結果を再検証し、具体的に、組織的に改善策を練っているところであり、随時対応して行く。 |
| | 「地域探究の時間」の発展・充実 | ○2年生を中心に全校生徒が「地域探究の時間」に取り組む。地域に関する関心が高まっているとともに、コミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力を身につけている。 ＜指標＞TMT(地域探究の時間で身につけたい力)アンケート調査において、コミュニケーション力、探究学習力、プレゼンテーション力が向上している。 | ○「地域探究の時間」は5年目を迎え、新入生についても入学時にすでに学習に対する意識が高まっている。 ○1年生は「地域探究入門」、2年生は「地域探究の時間」、3年生は個別の探究学習において地域についての知識を深め、関心を高める学習プランができており、特に2年生の活動については意欲的に活動に取り組む姿が見られる。 | ○地域の講師の方々と連携を密にとり、状況に応じた役割分担を行い、様々な視点から教育的効果の向上をはかる。 ○2年生の活動では年間の学習スケジュールを見据え段階的なMT育成を行う。 ○1年生の入門では協同学習力や主体性の向上を意識した学習を行う。3年生の個別学習については生徒の進路希望を適宜把握しながら進路実現につながる学習を行う。 | ○講師の方と各担当講師が連携してフィールドワークを中心に事前学習、振り返りと充実した取組を進めている。現在成果発表に向けたまとめ活動を行っており各、講師の方の助言を受けて発表準備を行っている。 ○1年生の入門活動では隠岐学習センターから講師を招き探究学習のポイントを講義していただいた。北栄町を題材に簡単な探究学習を行っており、グループ学習の手法などを段階的に経験し学んでいる。 ○2、3年生を中心に学校外の探究活動に主体的に参加する生徒が出てきた。進路実現に具体的に繋がっている生徒が出てきたり、地域の方々から感謝の言葉をいただく成果が出てきた。 | B | ○今後は校内発表、ハイスクールサミットと成果発表の場が広がっていく。各方面からの評価等を活かし成果物のブラッシュアップを効果的に進め、生徒の成長につなげる。 ○各発表会の準備運営を可能な限り生徒の主体性を引き出し運営していく。 ○1年生は入門の立場にあるが来年度の活動に備え、意識の高揚につながるようなかわり方を促す。 ○3年生の進路指導において、面接や小論文、集団討議等、探究学習で身につけた力を発揮する場面において十分に力が発揮できるよう指導を行う。 |
| 学校における安全確保 | 学校教育活動における安全確保の徹底 | ○生徒が安心して学校生活を送ることが出来る環境作りに取り組んでいる。また、事故等の未然防止、初期対応のとれる体制を整えている。 ＜指標＞学校における事故等の減少。救急救命講習等の予定どおりの実施。 | ○体育の授業や部活動で、安全への意識の向上と安全対策の徹底に取り組んでいる。それ以外の学校生活においても、事故防止のために安全対策の徹底に努めていくことが必要である。 | ○教職員及び生徒(部活動各員)対象の救急救命講習を実施し、全員の取組をめざす。 ○校内危機管理マニュアルの点検を行い、安全対策の再確認を行うとともに、その周知徹底を図る。 | ○救急救命講習は年内の実施を予定。 ○校内危機管理マニュアルの点検は、避難訓練等の機会に行い、周知徹底を図っている。 ○生徒の負傷時の対応が適切にできなかったことがあり、簡潔な手引を作成し、教員や生徒に示した。 | B | ○救急救命講習、避難訓練に加え、球技大会等の機会を捉えてさまざまな災害、負傷等への対応の周知を図る。 |
| 業務改善の取組の推進 | 業務内容の見直しと時間外業務の縮減 | ○各分掌・学年において、業務内容の見直しが進み、業務改善への道筋をつけている。 ○部活動の適切な休日の設定や業務の洗い出しにより、時間外業務の縮減を図られている。 ＜指標＞月当たりの時間外業務が平成29年度比15%減となっている。 | ○学年・分掌業務において、取組や目的、準備体制の重複等で、効率化の余地がある。 ○休養日などを設定した各部の活動方針が徹底されていない。 | ○各分掌において、優先順位の低いものについて1つ以上の業務を削減する。 ○休養日、活動時間を設定した活動方針の全部活動への徹底。 ○時間外業務80時間以上勤務者の大幅に減ったが、緊急の生徒対応等で超過することがあった。 | ○削減する各分掌の業務は精査中である。 ○各部活動の活動時間は減ってきたが、遠征等で超過する部もある。 ○時間外業務80時間以上勤務者は大幅に減ったが、緊急の生徒対応等で超過することがあった。 | B | ○前期を振り返って昨年度からの引継状況、前期の業務遂行状況を踏まえ、削減する業務を具体的に絞り込んでいく。 ○各月の半ばに超過勤務時間を個々に伝え、勤務状況の把握を促す。 |